

2006年4月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2006年3月度 高島屋営業報告

【総計】(前年対比、単位：%)

株高島屋計	分社4店含む実質
+1.7	+2.4

3月度は百貨店事業、通販事業が順調に売上を伸ばし、分社4店含む実質では+2.4%となった。昨年9月度以降、7ヵ月連続で前年売上実績を上回った。

分社4店とは、関西地区の岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋、関東地区の高崎高島屋です。

【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

分社4店除く	18店計
+3.2	+3.8

春物商材の積極的な営業展開の奏効、高額商品群の好調な売上等により、18店中15店が前年実績を上回った。18店計の売上は+3.8%で、6ヵ月連続の前年実績クリアとなった。地区別では、関西地区が+1.9%、関東地区が+5.1%となった。

【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	2.4	+3.2	+0.7	+8.0	+29.1	+3.4
入店客数	6.2	1.2	+3.4	+4.0	+30.0	+5.2

大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

大阪店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

関西地区合計	
分社3店除く	9店計
0.1	+1.9

関東地区合計	
分社1店除く	9店計
+5.1	+5.1

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	+3.2	+8.0	+5.1	+6.5	+2.6	1.9	+1.9	+3.5
入店客数	+4.0	+1.9	5.1	+1.9	+2.0	1.4	3.5	1.6

横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

横浜店の入店客数は単店になります。

関西地区では9店中7店が前年実績を上回った。大阪店は紳士服・美術・宝飾品等は好調であったが、昨年の売場改装の反動減もある食料品等が伸び悩んだ。京都店は婦人服・紳士服・宝飾品・食料品等が改装効果を発揮、また特選衣料雑貨も前年実績2桁増となった。3/15に改装した洛西店も強化した食料品・化粧品が前年実績を2桁上回った。その他、全館改装効果が持続する岐阜店は6ヵ月連続、泉北店が2ヵ月連続で前年実績をクリアした。

関東地区では東京店・横浜店・新宿店の大型3店をはじめ、9店中8店が前年実績を上回った。中でも、横浜店は11ヵ月連続の前年実績クリアとなった。大型3店は特選衣料雑貨・宝飾品・呉服等の高額商品群の好調に加え、紳士・婦人衣料等の春物商材も好調に推移。他の店においても、春物商材の好調な動きや特選衣料雑貨・宝飾品等の2桁増もあり、総じて好調な推移であった。

【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業	広域事業計
売上高	22.7	+8.1	12.7

法人事業は、企業向け販促品等で新規物件があったものの、前年の企業制服の大口計上の反動減や販促物件の規模縮小等が影響し、前年実績を大きく割り込んだ。通販事業では、化粧品・食料品が低迷したが、ファッション商材は好調で前年実績を上回った。

【商品別概況(百貨店協会商品区分)】(前年対比、単位：%)

	株高島屋計	分社含む実質
紳士服・洋服	+5.3	+5.5
婦人服・洋服	+1.5	+2.4
子供服・洋服	+0.8	+0.9
その他衣料品	+3.5	+1.9
衣料品計	+2.2	+2.8

	株高島屋計	分社含む実質
身のまわり品	+5.7	+7.1
家具	+10.7	+10.9
家電	37.4	37.2
その他家庭用品	6.8	6.7
家庭用品計	5.3	5.0

	株高島屋計	分社含む実質
食料品	+3.8	+4.6
食堂・喫茶	+2.6	+3.9
雑貨	3.1	2.9
サービス	+8.4	+8.2
その他	1.2	1.1
合計	+1.7	+2.4

当社分類による百貨店事業の商品別概況

春物の衣料品や雑貨が天候にも恵まれて好調に推移した。紳士服(前年対比+6.1%)ではジャケットやスプリングコートの動きが良く、また、婦人服(同+4.0%)においても柔らかな素材のワンピースやスプリングコート、ボトムスが好調。婦人雑貨(同+5.4%)でも春の新作商品等の動きが良く、化粧品・ハンドバック・婦人靴・アクセサリ等の主要アイテムが好調。その他、特選衣料雑貨(同+12.0%)、美術(同+9.8%)、宝飾品(同+9.0%)といった高額商品群、食料品(同+5.4%)等が前年実績を上回った。